

平成 23 年 1 月 7 日

各 位

会 社 名 株式会社アイビーダイワ
代表者名 代表取締役社長 齋藤 芳春
(J A S D A Q ・ コード 3 5 8 7)
問合せ先
役職・氏名 執行役員 井上 政隆
電話 0 3 - 5 3 1 2 - 6 5 1 0 (代)

天然資源開発投資事業の廃止に関するお知らせ

当社は、平成23年1月7日開催の取締役会において、平成23年3月31日をもって、天然資源開発投資事業を下記のとおり、廃止することを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 事業廃止の理由

当社は、昭和22年(1947年)に創業、昭和38年(1963年)には店頭公開し、創業期には製袋用ミシン系や網糸を含む繊維関連製品の製造、販売を中心とした繊維事業会社でした。いわゆる軽工業が当時の後進開発国へ移行を続けるなかで、徐々に事業規模の縮小を余儀なくされました。その結果種々新規事業を試みましたが成功せず、香港のクロスビーキャピタルグループの支援を仰ぐこととなり、平成17年6月28日の取締役会にて当時ロンドンのAIM市場の上場企業であったロドル リソース社を株式の現物出資という方式で、公開買付けすることを決議し、天然資源開発投資事業を主たる事業として育成し、企業基盤の再構築を開始いたしました。クロスビーキャピタルの推薦により天然資源開発についての経験豊富な高橋正紀が、同年9月の臨時株主総会において取締役に選任され、その後代表取締役社長に就任いたしました。高橋は、ロドルリソース社が米国ルイジアナ州陸上を中心に、ハイリスクの石油ガス探鉱事業会社であったため、リスクの低いキャッシュフローのある生産中の事業を主体とする石油ガス事業会社を同時に買収、取得することを社長就任引き受けの条件とした結果、ダーシー社を取得し、米国ルイジアナ州等における天然資源開発を本格的に開始いたしました。平成19年には子会社ダーシー社の名義を変更し、リード・ペトロリアム・ピーエルシーとして、英ロンドン証券取引所AIM市場に上場する一方、ロドル社は米国ルイジアナ州における石油ガス探鉱事業を開始いたしました。最初の浅部探鉱は成功しましたが、その後の深部探鉱事業2件がいずれも失敗に終わった結果、平成20年年初にクロスビーキャピタルが当社支援から撤退を決定し、当社に探鉱・開発資金の多額のローンの弁済が滞る結果を招きました。その際の経営危機は、高橋が同じく香港のADMキャピタルの支援を取り付け克服しましたが、その際担保としたリード社の株価がリーマンショックにより暴落し、再び経営危機に直面し、平成21年、リード社の全株式ならびにその他の資産の売却等により負債を一掃し、平成22年、新たに米リーオクタ社に投資を行い、今後大きく発展が見込まれるメキシコの鉄鉱石開発事業に参入いたしました。同時に、従来の国内事業であった繊維関連事業を譲渡し、小規模であったもう一つの国内事業であった食品事業を強化することいたしました。ハミングステージ社を完全子会社化し、営業キャッシュフロー実現が早期に期待できる事業として食品事業に着手いたしました。リーオクタ社を天然資源開発投資事業の柱として、事業の建て直しを図りましたが、当社の方針が営業キャッシュフローの黒字化を早期に目指すものであり、天然資源開発事業は、投資後のキャッシュフローの回収に時間のかかる事業であることから、食品事業に投資資源を最優先に投じた結果、リーオクタ社のメキシコでの鉄鉱石探掘事業に大幅な遅れが生じました。食品事業が比較的順調に営業成績を上げる中で、天然資源開発事業の売り上げに占める割合が大幅に低下し、当社の事業の中核は食品事業に完全に推移いたしました。

総括いたしまして、当社は平成14年から約76.4億円のエクイティファイナンスを実行し、そのほとんどを天然資源開発投資事業に投入してまいりましたが、今回の事業の廃止を持ちまして事業リソースのすべてを失うこととなりました。

本日、天然資源開発投資事業の担当責任者である高橋正紀が代表者を辞任したことにより、当社は、今後同事業を運営していくことが難しくなったことから、平成23年度中に同事業を廃止することを決定いたしました。本日より2月中旬に予定される臨時株主総会までの期間、高橋正紀は取締役として同事業の清算を進め、本年度末までに完全に同事業を廃止いたします。

2. 事業廃止の概要

(1) 廃止部門の内容

当社は、天然資源開発投資事業を子会社であるロドール社を通じて行っている比率が大きかったため、可及的速やかにロドール社（9月末現在簿価10,790,000円）の売却を行います。続いて、残りの資産であるリーオクタ社の株式（9月末現在簿価143,590,000円）の売却、ブルザイ油田事業（事業権益8%、9月末現在簿価140,738,390円）の譲渡を行い事業の廃止を完結いたします。本日から高橋により各案件につき売却の交渉を始めておりますので、今期末までには十分に完了する見通しが立っております。

(2) 天然資源開発投資事業の平成23年3月期第2四半期における経営成績

	天然資源開発投資事業部門(a)	当社平成23年3月期第2四半期実績(b)	比率(a / b)
売上高	13百万円	585百万円	2.22%
営業利益	5百万円	118百万円	
経常利益	5百万円	132百万円	

天然資源開発投資事業の平成22年3月期における経営成績

	天然資源開発投資事業部門(a)	当社平成22年3月期実績(b)	比率(a / b)
売上高	72百万円	598百万円	12.04%
営業利益	21百万円	360百万円	
経常利益	21百万円	880百万円	

(3) 天然資源開発投資事業に属する従業員及び資産等の取扱い

当社における同事業に関与していた従業員は、ロドール社の海外オフィス閉鎖後は、実質高橋正紀1名であります。ロドール社を可及的速やかに売却することで、子会社における人的な要因での変動はありません。資産については上記に記したとおり速やかに売却および譲渡を行っていく予定であります。

3. 事業廃止の日程

取締役会決議 平成23年1月7日
事業廃止期日 平成23年3月31日

4. 今後の見通し

大規模な資産の売却および譲渡を実行するため、貸借対照表上で大きな数字の変動が予想されます。各案件が処理され次第、ご報告いたします。本業務廃止による売上高及び利益額への影響額は、売上高3,700万円、利益額 2,800万円ですが、今後の事業売却の進捗度合いにより業績予想が変動するため、数字が確定し次第ご報告いたします。

事業廃止後の業績見通し

	平成 22 年 3 月期 (実績)	平成 23 年 3 月期 (予想)
売 上 高	598 百万円	2,036 百万円(37 百万円)
営 業 利 益	360 百万円	180 百万円(28 百万円)
経 常 利 益	880 百万円	177 百万円(28 百万円)
当 期 純 利 益	1,843 百万円	28 百万円(28 百万円)
1 株当たり年間配当金	0 円 00 銭	0 円 00 銭

(注)()内は事業廃止による影響見込み額である。

以 上